私立大学薬学部で最古の歴史を誇る　東京薬科大学

私立大学薬学部で最も歴史がある大学です。
日本の薬学教育を牽引してきた功績は大きく、多くの卒業生が医薬・医療業界で活躍しています。
また、長い歴史の中で姉妹校や協力施設などのネットワークを気づくなど教育環境が形成されています。
薬剤師国家試験に対する準備、各種施設・設備などの充実度は、群を抜いていると思います。東京薬科大学をご紹介します。

138年におよぶ、東京薬科大学の歴史

入試　志願者・受験者・合格者の推移

アクセス

教育環境（姉妹校・実務実習病院　海外研修プログラム）

薬剤師国家試験対策

キャリア支援活動

東京薬科大学の歴史

東京薬学校と上野女子薬学校の誕生

東京薬科大学の前身は1880年創立の東京薬舗学校。1883年に東京薬学校となりました。1929年には上野女子薬学校が設立され、1931年に東京薬学専門学校女子部になりました。

1949年、東京薬学専門学校と東京薬学専門学校女子部を併せ、東京薬科大学が設立されます。このような経緯から男子部と女子部が存在することになったわけです。

男子部・女子部が同じキャンパスで学ぶようになったのは、1976年の全学八王子キャンパス移転後のことです。女子の比率が著しく高い薬学部において、男子学生と女子学生の数を均等にするために、今日でも男子部と女子部の体制を継続しています。

創立138年という歴史が築いた学習環境、人脈、様々な実績は他の追随を許さない存在です。

レベルの高さは、ストレート卒業率などの実績が証明

ハイレベルな受験生が集まる入試です

入学試験は、AO入学試験、推薦入学試験、一般入学試験B方式・S方式です。入学案内には、各試験の出題意図や学習のポイントが紹介されており参考になります。

上位校の入試は、同レベルの受験生が集まる傾向があり、志願者が減少しても入試が優しくなるわけではありません。

多くの大学が志願者を減らし、右のグラフでみられるように東京薬科大学も志願者・受験者を減少させています。

しかし合格者数が絞られるため競争率は4.5～5倍。大きな変化が現れないのです。合格にはしっかりした準備が必要です。

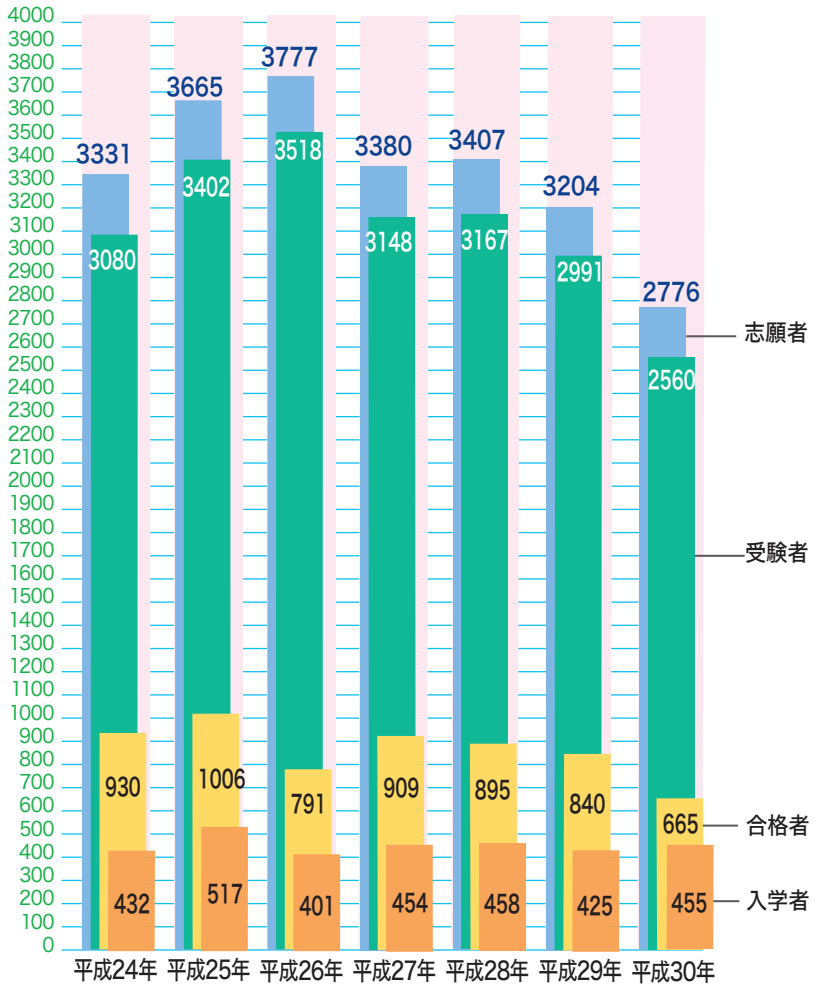
基礎から確実に積み上げる薬学専門教育

1年次の授業は基礎教育、2年次が専門基礎教育、そして3年次は専門教育です。

４年次から卒業までの期間は、低年次で学習した科学的知識を統合して、薬剤師に必要な知識・技能を磨き上げます。

東京薬科大学は、「薬剤師国家試験 新卒合格率 4年連続上位校」で紹介しました。各学年の学びを習得して毎年高合格率を残す。さらに現役卒業率（ストレート卒業率）も高い数値を残しています。

入試の推移



都心から、神奈川・埼玉・茨城・山梨など各方面から入学

最寄駅は３駅。いずれもバスの乗車時間８分

中央線「JR豊田駅」、京王相模原線「京王堀之内駅」、京王線「平山城址公園駅」のいずれからも約8分のバス乗車時間です。

東京・神奈川を中心に意外に便利な通学環境

●都心部からの通学

2018年入学者は、東京都出身者が最多、入学者の約36%です。

○JR豊田駅を利用

新宿駅から豊田駅は、中央快速で33分、快速で44分の乗車時間です。

東京駅からでも快速で59分（特別快速47分）と都心部からのアクセスはまずまずの通学距離です。

○京王相模原線・京王堀之内駅を利用

京王線明大前駅から「京王堀之内駅」は乗車時間約30分です。

○京王線・平山城址公園駅を利用

女子学生寮がある京王線挟間駅から「平山城址公園駅」までの所要時間は、快速を利用して約13分です。

●意外に近い神奈川の主要都市

次いで約16%が神奈川県出身の学生です。神奈川県は、アクセスの良さから通学しやすい地域のようです。

○京王相模原線・堀之内駅を利用

横浜駅からは、JR横浜線を利用して橋本駅で京王相模原線に乗り換え。乗車時間が約45分ですから通学圏内です。

藤沢駅からは、町田駅で小田急線から横浜線に乗り換え、さらに橋本駅で京王相模原線に乗り換えます。

最短乗車時間は約40分ですからイメージよりも近く感じます。

●混雑する都心を迂回

埼玉方面からは、JR武蔵野線や八高線が利用できるため多くの学生（約12%）が通学しています。

○JR豊田駅を利用

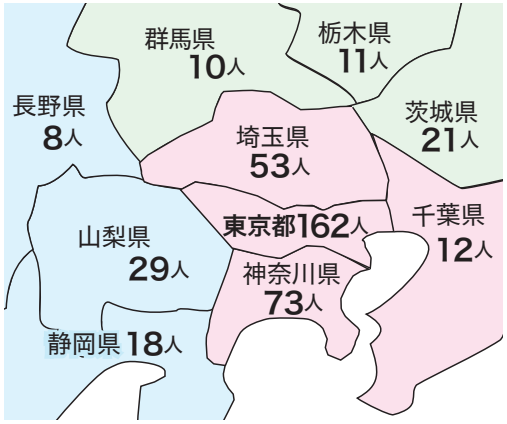
浦和駅から豊田駅までの乗車時間は45分、大宮駅から47分、上尾駅からでも1時間10分ですから通学圏内です。

●下宿しないで通える環境

意外に多いのが山梨県出身の学生です（約6%）。

○JR豊田駅を利用

大月駅から豊田駅までの乗車時間は47分ですから下宿しないで薬学部に通えるのです。



東京薬科大学の教育環境

基礎から確実に積み上げる薬学専門教育

薬学は基礎の確立が重要です。1年次から3年次の基礎教育から薬学専門教育まで徹底した指導が行われます。

その上で4年次の実務実習事前実習では、個々の学生に対するPersonalized Education（個別化教育）に配慮した独自の学習プログラムを実践し、共用試験の100%合格を目指します。

臨床の第一線を模した薬学実務実習教育センターでは、実務家教員による臨床・薬局の第一線さながらの事前実務実習や講義を行います。

ここには無菌調剤実習室や模擬病室・模擬薬局などを設置。調剤実習やベッドサイドでの服薬指導などを体験します。また地域のボランティア患者を相手に薬の飲み方を説明するロールプレイングを体験するなど、まさに実践的です。

●屋根瓦方式の演習

東京薬科大学は、基礎科目修得のために「屋根瓦方式」の演習を導入しています。1年次の「生物学」と5年次の「医療コミュニケーション演習」を組み合わせたもので5年生が1年生を指導します。

教える5年生は、分かりやすく説明するため「生物学」を復習することになり、結果的に1年生と5年生、両方の理解度が高まることになるのです。

東京薬科大学は、教育効果を高めるため、様々な取り組みをしています。

薬学実務実習教育センター

患者ロボットを使ったフィジカルアセスメント教育

東京薬科大学の教育環境　実務実習

薬剤師国家試験対策は、実務実習での学びが重要

薬剤師国家試験は、実務を重視する観点から実務実習で学んだ内容が重視されます。実務実習が将来の薬剤師国家試験に大きく影響します。

卒業生が臨床や保険薬局、製薬業界など各方面で働いています。また協力関係にある医療施設が豊富にあることも同大学の特色です。

●学生教育に必要なら独自の調剤薬局も設置

学生教育に必要となれば調剤薬局も設置するダイナミックさがあります。

東海大学医学部付属八王子病院は、地域交流事業協定を締結した実務実習病院です。病院の近くに「東京薬科大学附属社会医療研究センター・附属薬局」を設置。同病院が発行した処方せんに触れることができます。

東京薬科大学附属社会医療研究センター・附属薬局は、大学病院の門前薬局であり、同学学生の薬局実務実習施設でもあります。病院と連携しながら実務実習の学習効果を高める環境をつくっています。

●姉妹校など協力体制がある実習病院

東京医科大学病院
杏林大学医学部付属病院
東京逓信病院
東海大学医学部付属八王子病院

●実習病院

ＪＲ東京総合病院
稲城市立病院
虎の門病院
国立国際医療研究センター
災害医療センター
多摩南部地域病院
大森赤十字病院
東京医科歯科大学医学部付属病院
東京医科大学八王子医療センター
東京鎌田医療センター
東京警察病院
東京高輪病院
東京山手メディカルセンター
東京慈恵会医科大学葛飾医療センター
東京慈恵会医科大学付属第三病院
東京慈恵会医科大学付属病院
東京女子医科大学病院
東京大学医科学研究所付属病院
東京大学医学部附属病院
東京都済生会中央病院
東京病院
同愛記念病院
日本医科大学多摩永山病院
武蔵村山病院
武蔵野赤十字病院
立川相互病院
立川病院
練馬光が丘病院
けいゆう病院
衣笠病院
横浜旭中央総合病院
横浜医療センター
横浜市立みなと赤十字病院
横浜市立市民病院
横浜労災病院
関東労災病院
菊名記念病院
厚木市立病院
済生会横浜市東部病院
済生会横浜市南部病院
小田原市立病院
新百合ケ丘総合病院
秦野総合病院
相模原協同病院
相模原病院
相模野病院
総合相模更生病院
太田総合病院
大船中央病院
大和市立病院
東海大学医学部付属病院
藤沢市民病院
さいたま赤十字病院
埼玉メディカルセンター
埼玉県立がんセンター
埼玉県立小児医療センター
秀和総合病院
深谷赤十字病院
西埼玉中央病院
東京慈恵会医科大学付属柏病院
山梨県立中央病院
山梨厚生病院
山梨大学医学部付属病院
群馬大学医学部付属病院
佐久総合病院
信州大学医学部付属病院
長野赤十字病院
筑波大学付属病院
東京医科大学筑波医療センター

東京薬科大学の教育環境　優秀な教員の存在

毎日の授業を薬剤師国家試験につなぐ

同学は、日々の学びを重視し午前に講義、午後に学生実習を行います。学生実習で講義で学んだことを実証するなど実体験を通して知識を吸収します。

理解度を高める工夫が随所にみられます。

●優秀な教員の存在が大きい

優れた教育システムに加え指導する教員の能力が高いことも東京薬科大学の特色です。実務実習では、学習効果を高めるため病院・薬局の施設ごとにコーディネーター（教員）を置きます。

実務実習では、コーディネーターが実習施設の指導薬剤師と連携してサポート。「個別指導」や「実習生の心身のケア」、「訪問指導と評価」などを担当します。

●卒論教室の教員・先輩のサポートも威力を発揮

東京薬科大学では、4年次に学科選択を行い同時に卒論研究教室に配属されます。各学科に配置された研究室から選択して、薬学に関する研究の一端に触れることができます。

東京薬科大学は、教育の中で薬剤師国家試験の合格を意識した取り組みを行ない、それは卒論研究でも貫かれています。薬剤師国家試験に対する準備を、日々活動する卒論教室の教員・先輩もサポートているのです。

もちろん研究室の研究活動も他大学には真似ができない設置数と充実した内容です。研究室は、医療薬学科に14教室、医療薬物薬学科に18教室、医療衛生薬学科に16教室が設置されています。

実験室で学生一人ひとりがテーマについて実験します。誰も成果を上げていないテーマ。目標とする結果を得るために問題点を克服しながら進めます。研究を進める中で問題解決能力、思考力を養い、新しい現象を発見する。その経験は将来薬剤師になっても役立つことでしょう。

アメリカの医療第一線に触れる

●医療の最前線に触れる海外研修プログラム

希望する学生は、3年次に韓国の檀国大学校に海外研修します。

4年次には中国・長春中医薬大学に、また5年次は米国の提携大学（南カリフォルニア大学、カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校）への海外研修に参加できます。中でも5年生の8月にカリフォルニア州立大学サンフランシスコ校（UCSF）と南カリフォルニア大学（USC）で行う研修プログラムは長い教育連携が築いたものです。

東京薬科大学キャンパスでも、UCSF・USCの教員が行う講義内容を学ぶセミナーも受講できます。

とくにアメリカの医療分野は、日本の10年先をいくいいます。アメリカの医療第一線に触れることは、日本の将来の姿をみることでもあります。

東京薬科大学の薬剤師国家試験対策

国試に向け薬学教育推進センターを中心に教育

国試にむけた薬学教育をコントロールしているのが「薬学教育推進センター」です。国試の出題傾向などを研究して日々の教育に反映します。

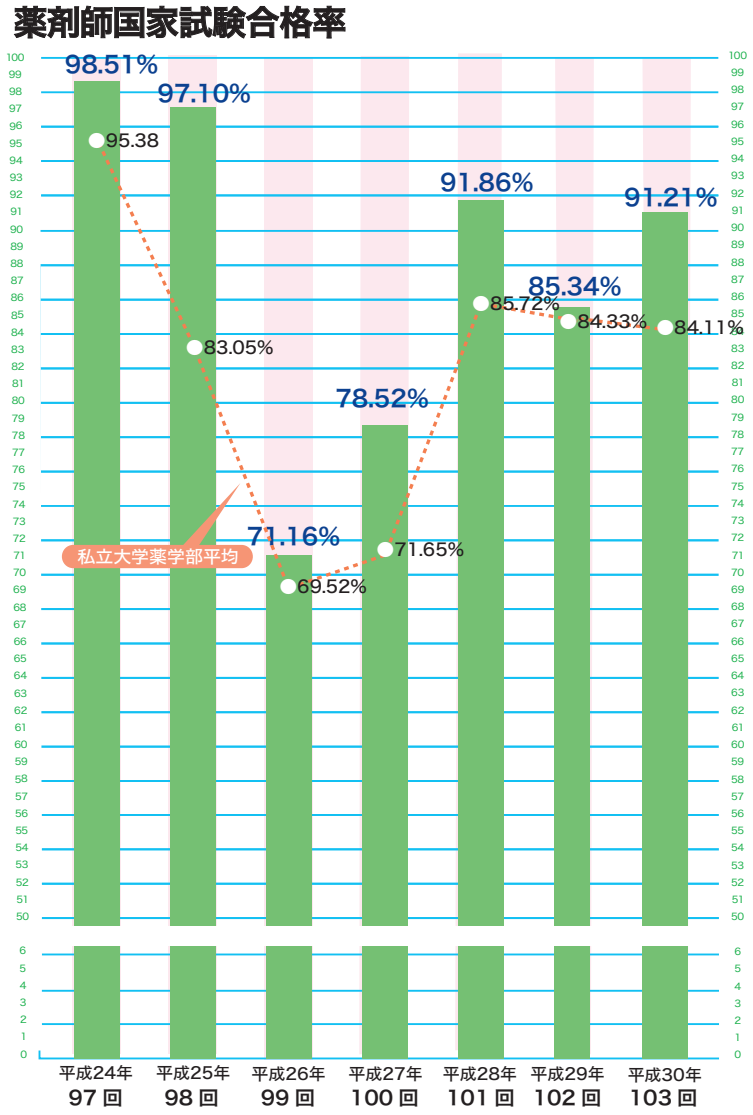
国試受験直後の学生に話を聞くと「総合薬学演習試験の第1回の成績はとても合格できる状況ではありませんでした。結果を見てもっと勉強しなければと気を引き締めて計画的に勉強しました」といいます。

卒業試験である「総合薬学演習試験」が数回行われ、本番さながらの問題に接することで実力がついていくようです。

高い合格率91.21%を達成

日々の教育は、「薬学教育推進センター」が立案した学習プランに沿って進められます。加えて特別講義や直前集中ゼミ、模試、総合薬学演習試験などにより計画的な受験準備が進められます。

模擬試験の結果により自分の実力を測り、不足しているところを補うなどの指導を受けます。予備校など外部の協力を得ず、大学独自の教育で上位の合格率を残しているのは評価できます。しかも4年連続で薬剤師国家試験の合格率上位かつストレート卒業率上位に位置しています。



東京薬科大学のキャリア支援活動

学生のキャリアデザインをサポート

東京薬科大学は400名以上の学生を国試合格に導き、また学生が希望する就職を実現しています。その凄さは就職実績にもみられ、それを支えているのがキャリアセンターです。キャリア支援の本気度は、支援スタッフにもみられます。薬学という専門性に応えるため業界経験者やカウンセラーの有資格者を支援・指導にあてています。

キャリアサポートシステム　キャリア・サポート・プログラム

●キャリアサポートシステム

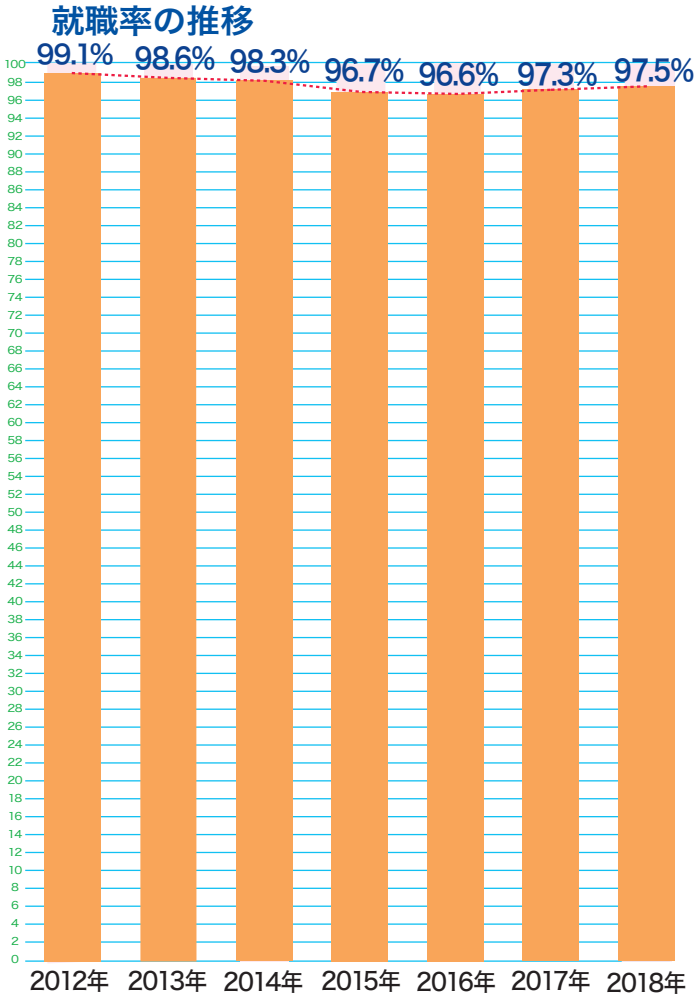
学年に応じてキャリアガイダンスやミニセミナー、企業研究合同フォーラム、公務員対策講座、TOEIC IPテスト、SPI模擬試験を計画的に実施します。

イベントに合わせて個別対応のエントリーシート添削や小論文の添削、模擬面接、カウンセリング（進路相談）、コンサルテーションを実施しています。

●キャリア・サポートプログラム

学生のキャリアデザインを支援します。年間のイベントに併せて卒業生や学生による講演会も実施します。卒業生を招いて行う「キャリア講演会（職業理解セミナー）」や「インターンシップ（説明会・実習・報告会）」、さらに6年生による「就職活動体験発表会」などを実施。

先輩が体験した具体的な内容ですから参考になるでしょう。



就職率の計算は、卒業生から大学院進学者数を減じた数字を就職希望者数としています。